

都道府県教育委員会などが2020年度に実施した公立小学校の教員採用試験（21年度採用）の競争倍率は、全国平均で前年度より0・1割低い2・6倍となり3年連続で過去最低になったことが31日、文部科学省の調査で分かった。なり手不足が進むことで、教員の質維持が難しくなるとも懸念される。

最も低いのは佐賀県の

採用試験の倍率 3年連続で最低 小学校の20年度

1・4倍で、2倍を切った自治体は採用試験を1より80人増えた一方、既に実施した広島県・広島市を1つと数えて計15あった。最高は神戸市の7・3倍だった。中学校教員の競争率は19年度比0・7割減の4

小学校の総採用者は1万6440人。18年度試験までは大量退職に伴う採用者の増加が続いていたが、19年度に続き2年連続の採用減となった。

高校は2019年度より0・5割上昇して6・6倍だった。

総受験者は4万3446倍だった。